

R. S. C. D. S.
東京ランチレター

No. 33

新チェアマンに池間博之さん

＜ランチ年次総会終る＞

6月15日(土)、神奈川県綾瀬市の石川島研修センターにおいて42名という近來にない会員の出席数をえて、RSCDS 東京ランチの年次総会／初夏合宿が開催されました。くわしい内容は年次総会 No. 13をごらんいただくとして、ここでは新ランチ委員6名を紹介します(敬称略)。

チェアマン： 池間 博之
セクレタリ： 稲垣 俊
トレジャラ： 大内 俊子
委員： 中田 多鶴子
荒井 千文
掛川 純子

なお、ランチ会費の改定についても論議が行なわれ、1997年度(来年度)から現行¥1,400を¥2,000とすることが承認されました。



左から荒井、池間、稲垣、大内、掛川、中田の各委員

15日、ウェルカム・ダンシングから会は始まりました。MCは五十嵐成子さん。"What a Beauty my Granny was (R32)"などという、ふだん踊ったこともないような曲が最初で、あとの踊りも馴染みのないものが続きました。でもやさしい踊りばかりで、ウォークスルー1回でみんながたのしめました。それもそのはず、頭文字をならべると"WELCOME"となることに途中から気付いたみんなは『さすが!』と感心しました。ちょっとひねった"Oriol Strathspey"なんかも、すぐできました。最後は"Express"、この1時間半はおもしろかったですね。みんなリラックスしたあとで年次総会に入りました。

年次総会、夕食のあと、ひと休みしてから荒井千文さん(前半)と田村妙子さんのMCによるイ

ンフォーマル・ダンシングです。この時刻になると施設は私たちだけとなり、気兼ねなくダンスを楽しみました。4～5セットで、会場はちょうどよい広さでした。いつも裏方にまわっているランチスタッフも、セットに入っています。選曲は両MCによるもので、気負いなく踊ることができました。"Shiftin' Bobbins"など2曲には、予定になかったデュオ生演奏がはいり、オードブルとビールによる懇親会とともに雰囲気をいっそう盛りあげました。10時過ぎにダンシングが終り、入浴する人、2次会にやってくる人で夜は更けていきました。

翌日は2グループに分かれ、レディス・ステップ・ダンシング（講師：櫻井香枝さん）とカントリー・ダンシング（講師：岩崎誠司さん、鳥山豊喜さん）を研修しました。レディス・ステップ・ダンシングは東京ランチとしては初めての催しで、第1部初心者コースには女性の大半が出席しました。

昼過ぎまで踊ったあと解散となりました。踊りたりなかったという感想もきかれましたが、英本国なみのゆったりした日程で、年次総会もそれほど堅苦しくなく開催できました。このような合宿と年次総会の組み合わせは2回目です。これからもこの形式が定着することが望まれます。

ランチクラス案内の送付変更

ランチクラスは会場確定が1か月前のため、はがきで全会員に開催場所、内容をお知らせしています。参加メンバーが開始以来1年を経過し固定化しつつあること、そして冗費と手間を節約するため、今後は関東地区の会員と希望者にランチクラス案内を送ることとしました。関東地区以外の会員で、引き続き案内の受領を希望する方はセクレタリまでご連絡ください。

8月のランチクラス：

8月3日（土） ①5.00 - 6.00pm レディス・ステップ・ダンシング
②6.30 - 8.40pm カントリー・ダンシング

二階堂芸術スポーツホール（明大前）

講 師 ①櫻井香枝 ②松橋順子

会 費 ①¥400（会員¥300） ②¥600（会員¥500）

96年度会員登録終る

4月末日で本年度のランチ会員登録を締め切りました。新会員数はつぎのとおりです（カッコ内は昨年の会員数）。

年次会員	294名	(311)
長期会員	161名	(159)
終身会員	3名	(3)
計	458名	(473)

昨年にくらべ15名の減となっています。昨年から今年にかけての新ランチ設立関連で、今年度東京ランチ登録を潔よしとしない、という方もいるようですが、おおかたは締切日失念、またはもともと積極的でなかったけれど他人にすすめられ、会員にはなってみたがそれほど得もなく一回こっきりでやめた、という見方をしております。

記入欄がせまいのが原因としても用紙に名前のない方がおり、年会報にはひらがなで現しています。振込先の口座番号を間違えてお金が宙に浮いた場合、振込人の名前がないと、その金は郵政省

が没収してもよいこととなりますのでご注意を。

締切り後の申し込み、過剰送金、受取人には通知されない下方の余白欄に、もう一人の名前を書いた方、自宅番地の誤記入、寄付だか会費納入だかこちらではわからない方、リスト形式不可なの
に堂々とまとめて氏名リストを送ってくる方など、いかげんな申込みがあいかわらず多く、事務局では音をあげました。

クレメント篤子さんからの報告

クレメント篤子さんからRSCDS臨時総会と執行評議会の報告をいただきました。◇……◆は
 brunchで追記した箇所です。

Special General Meeting 報告

10.30am on 11th May 1996 The Assembly Rooms, George Street, Edinburgh

マンスフィールド卿が議長を務められ、チャリティ法改正に基ずく以下の議論のみ、討論修正さ
れた。

1. ソサエティと brunch間のライセンス：文中1～2の確認の為の質問があっただけで、承認さ
れた。
2. ソサエティ規約改正：これはあくまでチャリティ法改正に伴う最小限度の改正に止めるとい
うことで、◇議案◆2ページ目のVI. Executive Council (1) Membership (c)の斜体字の重複部分
を削ること、"Notification of Suchthe Annual General Meeting."の文章を斜体字"A
Local Association may appoint"の前に挿入する、事が確認され、承認された。
3. brunch規約例は、実質的にソサエティと brunch間でその brunchの状況に併せて製作する
ということを確認し、承認された。海外の brunchも法律的に brunchの言葉が使えないため、多
少なりとも見直しが必要となる。

注) ソサエティと brunch間の根本的な関係が変わる訳ではなく、あくまでチャリティ法改正に
伴う税務署への申告という実務的な操作で、 brunchの会計を公に独立させる必要から、規約
改正になった事情を理解し、 brunchがソサエティから独立し自由な行為が取れるというとい
う意味ではないことを認識して下さい。東京 brunchを含む海外の brunchに関しては、規約
内で言葉の変更がある以外、影響は無いと思います。

4. 本部会員の手数料： brunch会員は各 brunch毎に brunch会費を納めるが、本部会員の
場合、本部が直接会員証や会誌等の送付に当たるため、その送料・本部職員のそれに費やす時間を計算
し本部会員の人数で割って、年間£5という数字になった。これを本部会員以外で負担するのは不
合理で、本部会員を希望する本人負担とするのが当然。長期会員はその10倍ということで、い
ずれも承認された。

AGMは、11月 2日ダンディで開催することが確認され、SGMは11.40am に閉会された。

Executive Council Meeting 報告

1.30pm on 11th May 1996 The Assembly rooms, George Street

まず、議長を務めるジョージ・ローソンから、ソサエティの副プレジデントの一人、アソル公爵が、
2月27日に亡くなったことが報告された。

以下、取り上げられた議題のみ：◇議題◆4. 委員会の議事録承認

4.1 GENERAL PURPOSES

96/32/1 — 議事録報告の書式について試行期間が終了するが、この方法を続けるかどうかにつ

いての賛否が問われ、賛成多数で継続されることになった。但し、もし完全な議事録を希望する場合は、切手を添付した返信用封筒を同封の上、本部へ依頼すれば送付してもらえることが確認された。

◇新セクレタリになって各委員会の議事録報告書のフォーマットがいくらか変わった◆

96/32/4-75周年行事の一環として、英国国内をリレー方式で巡回するダンス行事で、ニューキャッスル・ブランチから、「まだ一言の問い合わせも無い」という苦情が提出された。これに対して、この議事録が本日の執行委員会で承認されるまで実際に効力を発しない（実行に移すことができない）——という執行委員会の役割の再認識がされた。

◇別掲の75周年行事実行委員長ビル・クレメント氏のメッセージを参照◆

4.2 EXAMINATIONS

EX96/17 Correspondence: 委員会に送られて来た「全てのイグザミナーに対する提案」への反対意見が幾つか出された。主な理由は年齢でその人のアビリティは判断できないというもの。しかし、委員長から委員会がこれに賛成した訳ではなく、今後検討するというもので、混乱しないよう注意があった。

◇送られてきた提案とは、「イグザミナーになれるのは55歳までとする」「70歳以上のイグザミナーは後進に道をゆずるよう勧告される」「1年ごとに上限年齢を引き下げてゆき、65歳をイグザミナーの定年とする」「引退後のイグザミナーは teacher をリフレッシュさせる講習や tutor 育成、ブランチの助言者として活躍してもらう」という内容◆

4.3 FINANCE

F96/55 Subscription Copy 1997: リーフレットを出さない事に決定していたのでは………の質問に対して — Subscription Copy の出版されない年は、自由選択になるためその仕分けと発送に大変な手間が掛かる。また、その年のサマースクールは、参加者が減少気味である。これらを加味して1997年は本来 Subscription Copy が出ない予定だったが、4曲くらいを載せたリーフレットを出版することになった。

◇新ブックのない年は、既発行のブックの中から好きなものを、となるが、本部では Book 8 を14冊、Book 24 を17冊というようにブランチからの申込書を点検しながら集め、梱包する力仕事が必要である。ブランチにしても会員からの希望を集約する作業（これはパソコンを使えば簡単）と本部から入荷した400冊以上のブックを間違えずに会員に発送する作業があり、選別なしに1種類の本を一斉に送ったほうが楽、である。会員とってもほとんどのブックは持っていて、希望するブックは、とあれこれ悩まなくてすむ利点があり、この本部方針は歓迎されよう。リーフレットに付随するカセット、ビデオ発行はいまのところ考えていないとのこと◆

F96/57 Book 39: ◇Book 39 はいつもより出費がふえるという報告◆何故このようなことになったのかの質問に対して — かなりの Book 39 の踊りがワンス・スルーのため、楽譜全曲を掲載する必要からページ数が通常より多くなって経費が約50%増しとなった。出版調査委員長から前以て財務委員長に打診すべきであった。

F96/11/3 Affiliated Groups: これは討議されただけで、結論は現状維持。

◇Affiliated Groups のありかたについて。新ブックやブリティンを受けとっていないグループがあるのではないかと、ブリティンにグループのセクレタリ名を載せるの

になんらかの手数料を徴収すべきか、グループ年会費の値上げによってグループ内 RSCDS 会員の減少が考えられ、いまの会費システムに代わる別のやりかたがあるかどうか、という内容◆

F96/12 Summer School: 申し込み用紙にあるように参加費は返金されないの、もしもの場合を考えて保険に加入するように重ねて注意が促された。

◇父親の病気により参加できなくなった米国人から、参加費の払い戻し請求をうけた。申込書にあるとおり払い戻しはできないと通知したが、本人がオレゴン州ポートランドで発行する機関紙が送られ、ソサエティのやりかたを非難する記事が載っていた。あらためてチャアマンから払い戻しできないとの手紙を送った。その後本人からの返事はない◆

4.4 PUBLICATIONS & RESEARCH

PR96/6/2 Reprint Revision PE13-15:試験用に改定された最新版でリーフレットを出して欲しいという要望が提出された。

◇Book 39 を含んだ"Formation Index" 改訂版の発行準備が進められている。ポケット版Book 13-15の見直しが行なわれ、すでに印刷にかかっている。Miscellany Vol. I & IIも引き続き改訂される◆

4.4 SUMMER SCHOOL 一特になし。

◇議題◆5. Awards of Scroll: 今回は日本でもおなじみの方お二人が受賞されます

★現ロサンジェルス在住ディビッド・ブランドン氏(メアリー・ブランドンさんのご主人)・★アレスター・マクファージョン氏(教師として、試験管として二度訪日されている)☆その他、イングランドのサマセットから一人、オーストラリアから二人が受賞

◇議題◆6. Dorset Caledonian Society, Budapest Scottish Country Dance Club, St Andrew Society of Russia, Worcester Caledonian Societyの4つがアフィリエイテッド・グループとして承認された。

◇議題◆7. Any other business:

a) 何故ブランチ出版物がソサエティの出版物リストに載せられないのか? — 検討する

b) かつて各委員長が一同に集まって協議するコンヴィーナーズ・ミーティングがあったが、これを復活させたら? に対し — チャアマン、副チャアマンが各委員会に出席しているのだから時間経費ともに不要では? 各委員会の活動をスムーズにするには有効……等、議論された。

c) スコットランド国内では、新設の団体ダンス・トラスト、ケイリーダンスの流行等、ソサエティの活動が敬遠される傾向にある。ソサエティの方針と組織の在り方を検討する必要があるのでは?

d) 規約改正に関して最小限の改正に止めることが方針 — 提案、問題があれば本部に連絡して欲しい。

e) コリン出版の"Scottish Country Dancing"は、ソサエティのダンスばかりではなく、ソサエティ以外のポピュラーなダンスやいわゆるパーティダンスと呼ばれるものなど踊りが豊富に網羅されているので一見に値します。

◇別項の新ダンスブック紹介を参照◆

f)新しいブローチもお忘れなく！

◇あたらしい小型銀製ブローチの販売を開始した。大型のものはデザインを検討中。
スコットランドを主題にソサエティ・ロゴの入ったカレンダー 300部をサマースク
ールで販売する。価格3ポンド（大型のカレンダーではない？）。サマースクール
中、いろいろな銀製ジュエリーを販売することで業者と合意した◆

次回のExecutive Council Meeting は、11月16日1p■ からが確認され、3p■ 閉会した。

R S C D S 75周年記念行事について

75周年記念行事小委員会委員長

ビル・クレメント

みなさんもお承知のとおり、1998年にソサエティは75周年を迎え、これを盛大に祝うこと
にしています。祝賀行事は1年にわたって行なわれ、1998年11月のグラスゴーにおける年次総
会（AGM）で最高潮に達したいと思っています。

75周年記念行事小委員会は執行評議会（ECM）の承認を得てさまざまな提案を行なって
いきますが、私はこの機会に各ブランチとコンタクトし、いままでに決まったことがらについて
詳しくお伝えしたいと思います。

この記念行事は、ソサエティの歴史のなかでも特別なできごととなりますが、世界中のでき
るだけ大勢の人に参加してもらうことが、小委員会の大きな希望です。いつもの誕生日行事に
加え、世界中でラリー形式による行事が行なわれることを期待しています。

ラリーは地域別の実施されるべきでしょう。大人も子どもも参加し、できるだけ多くのスコ
ティッシュ・カントリー・ダンサーが75周年を祝っていただきたいのです。その地域内のブラ
ンチとブランチどうしが組織委員会をつくり、手をたずさえて実施していくよう希望していま
す。ソサエティの世界的な関係をあきらかにするため、ラリーは5つのダンスを中核にしてく
ださい。そのダンスとは、"Mrs Stewart's Jig", "The Duke of Atholl's Reel", "Miss
Milligan's Strathspey", "The Triumph", "Sugar Candie"の5曲で、プログラムののこりのダ
ンスはその地域で選んでください。

ラリーはブランチが主体となり、地域ごとに独立採算で行なってください。ソサエティから
の財政的な支援はありませんので、不足が生じた場合に備え、臨時会計を設けるほうがよいと
思います。

英国内のブランチは大都市圏別で包括し、日程の原案はつぎのとおりです。みなさんの意見
要望をお寄せください。その他の地域からのご提案もぜひお願いします。また、海外のブラ
ンチも国別に連合して組織をつくり、ラリーを実施するようお願いいたします。

1 / 2月	ロンドン	7月	バース（サマースクール第1週と一致）
3月	バーミンガム	8月	ダンディ（サマースクール第2週と一致）
4月	マンチェスター	9月	アバディーン
5月	ニューカッスル	11月	グラスゴー（しめくくり）
6月	エディンバラ（ガーデンパーティ）		

ECMでとくに討議されなかった事項で、重要なもの、会員に予告しておいたほうがよいもの、英国と日本の風土の違いを感じさせるものなどを以下に述べます。

〔総括委員会〕

- 東京ブルーベル・クラブからのブランチ化申請。申請書によれば、現東京ブランチは大東京圏および関東6県をカバーしているが、ブルーベル・クラブは東京中心部をカバーしようとするものである。

APPLICATION FOR BRANCH STATUS
(Tokyo Bluebell Club) GP96/5

The application indicated that the current Tokyo Branch should cover greater Tokyo and all six Kantoh area prefectures, while the Scottish Bluebell Club covered central Tokyo area.

The Tokyo Branch were not able to fully support the reasons behind the formation of a new Branch.

The Committee agreed that although the Tokyo Bluebell Club had proved to be a most successful Affiliated Group, there was not sufficient justification to form an additional Branch within the Tokyo area. The application was therefore denied.

Branch Status - Bluebell Tokyo Club GP96/5
Tokyo Scottish Bluebell Club had written, indicating their disappointment at the decision of the Committee to reject their application for Branch status, and requesting the Committee to reconsider their decision.

The Committee noted that the club had a selective process for membership with a restricted age limit and that the application whereby two branches would cover one city was still in contravention of the Constitution. They could not accept the application.

現東京ブランチは、新しいブランチを設立する理由を支持できないという。

アフィリエイテッド・グループの中でも、ブルーベル・クラブが大きな成功を収めていることは認めるが、委員会は東京地区にもう一つのブランチをつくることを正当化できない。よってこの申請は否認された。

- 東京ブルーベル・クラブのブランチ化申請に対して委員会はこれを却下したが、ブルーベル・クラブは失望を示し、クラブとしての決断であり、再考するよう委員会に書面で求めてきた。

委員会は、ブルーベル・クラブが年齢制限を有し、会員を選別する方法をとっていること、ならびに1都市に2つのブランチができる申請は憲章に反することに留意し、この申請は受け入れられないとした。

- PR小委員会からの提案。

- a) 長期会員の会員証はクレジットカードの大きさとし、ラミネート加工することで了承した。
- b) ニュースブリーフは今後も年1回、1月に（できれば）発行したい。
- c) RSCDS年会報をつぎの2つに分けて発行できないか、検討グループをつくりたい。
- ブランチ・セクレタリおよびグループ・セクレタリの名簿で、これは2年に1回発行。
- 毎年発行する年次報告。これはレイアウトをやりやすくするためA4サイズが考えられる。
- d) 1998年の Book 40は、全世界にわたるソサエティの広がりをしめすダンス、ならびに伝統的でシンプルなダンスの組み合わせとすべきである。この件は出版調査委員会に要請した。

- Scottish Traditions of Dance Trust (スコットランド伝統ダンス保存会と訳すべきか) の件。
雑誌『スコッツ・マガジン』1月号に同トラストの広告があり、「スコティッシュ・カントリー・ダンスに関して学校教育と研究を推進するところがなく、その原資料を公開したり保存することはだれもやっていない」という内容であった。これは人に誤解を与えるものであり、反論をトラストに送り、写しをスコットランド芸術評議会(トラストの母体)、『スコッツ・マガジン』編集長およびマクファーソン博士(トラストの理事で設立者の1人)に送付した。

SCDおよびスコットランドの伝統が重要なことはいまでもなく、そのためにソサエティではアーカイブ(古文書保管庫)もある。アーキビストからも保管内容詳細を含んだ文面を『スコッツ・マガジン』に送ることにした。

- Scottish Traditions of Dance Trust (STDT) とのミーティング。2つの団体が手をたずさえていくために、自由なディスカッションが行なわれた。トラストはあらゆるダンスを発展させるため、援護団体としての機能を希望しており、ソサエティへの対抗機関になろうとは思わないし、ともに活動していきたい、と述べた。トラストが新しいダンスを出版することはなく、古い踊りを見つけた場合も、ソサエティの存在に留意することで合意した。トラストとスコティッシュ・ダンス団体とのオープンなコミュニケーションをはかるため、トラスト代表者会議にソサエティ代表者1名を加えることが合意された。
- ソサエティは最近設立されたThe Scottish Tartans Authorityに年額会費£60 で加入することとした。ほとんどのタータン・メーカーが加入しており、ソサエティもこれに加わることで、この分野で産業界と有益な契約が得られると考えるためである。
- 委員会は、ミス・パーカーがセクレタリとしての職務以上の仕事をこなしていることを認識している。セクレタリ(秘書、事務方)という用語は誤解されやすいため、よりふさわしい職務名を検討している。

【財務委員会】

- ソサエティが著作権をもつ楽譜、カセット、CDなどの販売について、ハーディ出版社との契約の見直しを行なっている。さらに2社からソサエティ商品の販売を行ないたいとの申し入れがあり、対応していく。
- SCDイン・ダイヤグラム(グリーン・ブック)。出版調査委員会の提案をうけ、ソサエティでもグリーン・ブックの販売を行なうことにしたが、出版元との間で卸値についての交渉がまとまった。現在第7版の改訂作業中で、RSCDS ダンスの正確度を高めるために出版元と打ち合わせる。
- 指導者連盟(カナダとオーストラリアにあり)がソサエティに支払う年会費は、1980年以来 £25 のままであったが、このほど見直しを行ない、£100とすることをECMに提案した。ECMでは一つの指導者連盟から異議が述べられ、もういちど委員会で検討することになった。
- ハーバー・コリンズ社との合意事項。ソサエティが全面協力したポケット版"Scottish Country Dancing"の契約がまとまり、契約金が支払われる。本の一般価格は£5.99、RSCDS 会員価格は£5.70 である。
- エディンバラ・ブランチから本部会議室の借用を申し込まれた。ブランチ委員会のために日曜または月曜の夜、年10回程度使わせてほしいとの要請である。セキュリティ(警備)上の問題と保険約款は事務室のどの部分も又貸しを禁じている。
- 用務員のミスタ・マクマホンがスタッフではできないいろいろな仕事を20年にわたってこなし、地下室の監督もやっていた。彼の退職に際し、感謝の気持ちとして £50を支払う。
- ソサエティ・リローンチ(再出発)。総括委員会はソサエティのイメージを一新する決定を行なったが、その手始めにいまのソサエティ・ロゴ(王冠マーク)などの見直し、再デザインをグラスゴー芸術学院に委託した。これにはロゴのほか、レターヘッド、コンプリメント・スリップ(感謝のメモ)、本部内印刷品、カセットテープやCDの解説カードなどが含まれる。なおエディンバラ芸術学院への委託も検討する。学生の卒業作品として取り組んでもらえるが、多少の出費は必要である。

【試験委員会】

- 「予備試験合格者はブランチ・レベルなら指導してもよい」は、ブランチにフル資格者がいない場合である。ブランチならフル資格者による指導が当然であるが、ブランチ・クラスにフル資格者がいないブランチはたくさんある。このような場合、予備試験合格者による指導を妨げるべき

ではない。ただし、ブランチは指導クラスにおいて予備試験合格者に経験を積ませるべきであり、フル資格を取るよう応援しなければならない。

- 1997年ツアー。東京ブランチから1996年に試験官を派遣してほしいとの要請があったが、財政の関係上、オーストラリア、ニュージーランドおよび日本からなる「パシフィック・リム・ツアー」として1997年に行なう見通しである。期間は合計3週間、時期としては7～8月を考えている。試験のみであり、トレーニングやティーチングは行なわない。日程については関係するブランチとコンタクトする。

(その後本部から「時期としては7月の終り」という手紙を受領しました)

- 試験における言葉の問題。試験ではふつう英語が用いられるが、ティーチング試験では英語と自国語との混合体でよく、ダンシング(リカップ)と筆記試験では自国語でもよい、とした。この方針をチューターに徹底するよう、サマースクール・ディレクタに要請した。

さらに、試験クラスにおいてクラスについていけない生徒、またはうまく対応できない生徒がでた場合、必要な処置をとる前に、ティーチャーはサマースクール・ディレクタと相談しなければならないとした。ディレクタは処置について事務局にアドバイスする。

- 予備試験合格者へのガイドラインを作成する。このガイドラインはすべての予備試験合格者が入手できる。さらにチューター講習会の教科書として使用され、かつ受験生クラス・チューターにも入手可能なものとする。
 - 1996年の講習会。a) 2月16～18日ミュージシャン・コース。アコーディオン2人、フィドル1人、ピアノ9人の申し込みがあった。講師ミュリアル・ジョンストンから「人数が少ないのでアコーディオンのコースを取止めることも考えては」の提案があった。フィドル希望者からは事前に打診があった。
 - b) 3月30日チューター・コース。14名の申し込みで、講師はレスリー・マーティン。
 - c) 4月20日ポテンシャル・チューター・コース。15名の申し込みで、講師はジョハン・マクリーン。
 - b)およびc)のコースはこれからも開催予定であり、受験生クラスを担当しているチューターは1998以前にチューター・コースを受講しなければならない。チューターになろうとしている人はポテンシャル・チューター・コースを終了しておくこと。オーストラリア、カナダの指導者連盟にも、おなじようなコースを設けるよう連絡する。
- ブランチが受験生クラスをもつ場合、正規のチューターは代役を務めるチューターを指名すべきであり、1998年以降、あたらしくチューターになる人はポテンシャル・チューター・コースを終了し、受験生クラスで経験をかさねることをリコメンドする。

【出版調査委員会】

- ナショナル・ミュージック・デイ。ミス・ルーアズがフェスティバルの打ち合わせに参加した。イングランドで1か月のシリーズとして行なわれるが、スコットランドに場所を移すことが望まれる。エディンバラ・ジャズ・フェスティバルのような形が望ましい。フェスティバル委員会は財政について慎重に検討中である。
- 故ユージェニア・シャープ夫人から、2冊に続いてまとまった数の書籍が寄贈された。約20冊は補修を要し、その費用£500が財務委員会から認められた。
- ポケット版ガイド「Scottish Country Dancing」がハーバー・コリンズ社から上梓された。表紙に「RSCDS との提携により編集」の文章が入っている。本に引き続いて、付属する音楽テープの制作が進められ、音源はソサエティのマスターを使用する。委員会は編者ピーター・ナイト氏の

労苦に感謝した。

- ビデオ。a)ビデオ版マニュアルは第1回のマスターテープ編集を終え、最終版編集に入っている。ナレーターは俳優のマイケル・マッケンジー。商品生産に先立ち、マニュアル執筆者、PR小委員会、音楽小委員会、モデル・ダンサーなど、関係者による完成祝賀会をやりたいと思っている。
b) Book 39ビデオはカメラ2台を使うことで財務委員会の承認を得た。ダンブレン事件の余波で予定していたスターリング市のホールが使えなくなり、別のビデオ撮りの場所を物色中。モデル・ダンサーはエディンバラ・ランチのメンバーが主体となる。
- 2枚の新CDを年度内につくる予定で、9/8 拍子の"Strip the Willow"と"Montgomerie's Rant"を加える。このほかにはBook 19, 20 および39から選んだダンスが入る。
- レッド・シスル・ダンサーズのビデオと著作権。同グループのビデオ(2月のランチ合宿で上映)に、RSCDS が著作権を有する材料(ダンス、音楽)が使われている。ソサエティは事後承認を与えたが、レッド・シスル・ダンサーズが所定の著作権手続きをとることが望ましい。同グループは、どのダンスが著作権の対象か、と問い合わせてきた。ダンスはトラディショナルとはいえず、その構成、編さんに RSCDSが権利を有している。
- ファン・マールスフェーン Miss van Haarseevenからの問い合わせに対し、E.メールで委員会の考え方をつぎのとおりやりとりした。
 - a)本部でそのダンスの出版を承認した場合でも、ダンスに修正を要するとき、作者の了承が得られるまでそのダンスの出版を見合わせる。
 - b)出版するのに適当と思えないダンスがわりあいにあり、これはボツにされる。その基準は、ソーシャルでないダンス、またはすでに同類のダンスが出版されている場合である。
 - c)出版しない理由を作者に通知するのはたいへんな仕事量であり、かつ本部に提出されたダンスの数がどのくらいか、知らせることは考えていない。ソサエティは基準に合ったダンスのみを出版しているが、これはソサエティの専決事項である。委員会は、提出されたダンスを試しに踊る、といういまの評価方法を十分なものと認識している。RSCDS ダンス、非RSCDS ダンスにかかわらず、SCDタイトルをすべて記載した2種類のインデックスがひろく入手可能であり、サマースクールでも購入できる。したがってソサエティが別途インデックスを発行する必要はないと考える。
- Book 40。ダンス・テスト済みであるから、とすでに4つのスコットランドのランチからダンスが提出されている。ただし Book 40はソサエティの世界ワイドな状況(つまりソサエティの歴史)を映すものと、かつできるだけトラディショナルでソーシャルな3~4曲の組み合わせとなる。
- 20周年記念ボールのライブ・レコーディングに使いたいから、とサンディエゴ・ランチから2曲の著作権使用申請があり、許可した。

[サマースクール委員会]

- 調律師によればオールド・ダイナーとコモン・ルームのピアノは修理限界を越えているとのことである。レンタルとするか購入とするか、委員会で議論し、ことしは2台をレンタルすることにした。来年は新品または中古品のピアノを購入するよう財務委員会にはたらきかけていく。
- 試験における使用言語およびクラス変更は、試験委員会からの申し入れにしたがう。
- ケイリにおけるくじ引きの収益は、75周年記念行事の基金に使用する。
- ダンシング・イン・ザ・ストリートは、もうサマースクールの定例行事となっている。各ティーチャーは、町での宣伝に役立たせるため自分達だけで固まらないよう、受講生によく伝えること。

4月20日(土)エディンバラにおいて試験委員会主催によるポテンシャル・チューターズ・コースが行なわれ、鳥山が受講してきました。会場は本部から50メートルほどのジョージ教会2階のホールで、ジョン・マクリーンHrs Johan MacLean が講師です。14名の受講者にはアニタ・マケンジー(東スターリング)、ジェニー・グリーン(ロンドン)、ボブ・グラント(エディンバラ)など、びっくりするような人がいました。靴だけは用意するよう事前の手紙で求められていましたが、キルト着用は不要でした。G. ローソン議長とエッキンヘッド試験委員長のあいさつがあり、受講者ひとりひとりの自己紹介と受講にのぞむコメントに続いて、ジョンの講義が始まりました。

彼女は OHP を使って1時間ほど講義しました。受験生クラスにおける Presentation, Management や Lesson Framework などです。「チューターとしてのスキル(技能)は、生徒にフィードバックできる能力である」といわれ、当たり前のことながらズシンとくるコメントでした。OHP 画面に映された項目をメモするのですが、ジョンの講義速度は早く、隣席のジェニー・グリーンも書ききれないようでした。受講生2人がペアになって、ジョンから与えられたテーマ「チューターの役割とは何か、Prelim と Teachers をやる目的は何か」を5分でまとめ、ついで発表、討議です。私はリバプールのおじさんと組みましたが、このような中程度の抽象的な会話でも私の能力ではお手上げ、リバプールさんにおまかせとなりました。

エッキンヘッド委員長がみずから運んだサンドイッチと紅茶で昼食です。この費用は本部持ち。ちなみにコース受講料は無料でした(交通費、宿泊費は受講生負担)。



休憩に続いて午後からは受講生ペアでステップとフォーメーションの指導です。実際の指導法講義ではなく、ジョンの手になる評価シートに、相手のステップで気付いた点を書き、発表するというやり方でした。私への指摘は Pas de Basque において力強さが不足している、という手厳しいもので、もっとホップを大胆にやれば改善するのではないかとのコメントでした。Strathspey Setting Step では、右へ行くのは良いが、左に戻るとき 3rd beat で右足を早く戻しすぎる、意識してゆっくり戻すように、というパートナー(グラスゴーのパメラさん)の意見です。

フォーメーション指導の実技は、Teachers Exam の課題曲に使われているフォーメーションを指導し、踊り全体をリカップし、ダンスさせるという方法でした。"Alltshellach"なんかはすっかり

忘れていたので戸惑いました。みんなも同様で、ジョハンからディスクリプションを借り、目をと
おしてあらためてリカップしていました。

全般的には各人の自主性を重んじ、私が4年前にジョハンによるトレーニングを受けたのと同じ
やり方であった、という印象でした。今回の講師がジョハンであったのは幸運でした。またサマー
スクールで会おうとことばを交わし、コース終了は 5pm でした。

エディンバラにいたのはこのときだけで、前後はグラスゴー、ロンドンで過ごしました。クロイ
ドン（ロンドン近郊）ランチのライゲイト・クラスの様子など、機会があればお知らせしたいと
思います。

★われわれは何を踊るべきか★

私たちは、ダンスは多く、踊る時間はあまりに少ない、という状況に直面しています。オースト
リアのキース・ネピア氏が発行するSCDインデックス（本とCD-ROM両方あり）には、
7,000 を越えるタイトルが収録されており、現在もお増え続けています。ジョン・ドゥルリー作
だけで 500以上の踊りがあり、RSCDS でも同じくらいのダンスを出版しています。こういう状態に
あって、私たちはなにを踊っていったらいいのか、踊るだけでいいのか、ロンドン・ランチとボ
ストン・ランチの機関紙に載った投書を紹介します。

ジョン・マーシャル

英国チェルトナム

みなさんは古きよき時代のSCDを覚えているでしょうか？ボールに参加した人はプログラム中
の全ダンスを知っており、スムーズに踊ることができた時代でした。談笑のとき、ソーシャルであ
るべき時間がありました。昨今では、なじみのない新しいダンスの氾濫にみまわれています。談笑
と社交の時間は少なくなり、みんな下を向いて「つぎのダンスは」と、リカップシートを見るのに
余念がありません。

だれかがダンスブックを出版したからといって、なにも私たちがそれを必ず踊らなければならない
という理由はないのです。もし古いダンスが私たちに多くの楽しみを与えてくれるとすれば、そ
れが踊らなければならないダンスだと思います。みんなが知らないダンスをボールのプログラムに
取り込むのは、まったく論外です。つい最近できたダンス、広く知られていないダンスをプログラ
ムに入れるべきではなく、そのグループ固有のダンスなどは、特定の人の独善としか言いようが
ありません。私たちは流行の先端を追いかけるミーハーなどになりたくありません。

このような新しいダンスに対して「ウォークスルーをやるから問題ない」という人がいます。し
かし、せっかくのボールを大人数のクラスに変え、雰囲気をおち壊すのがウォークスルーなのです。
基礎ステップやフレージングなどの重要な要素は失われ、ただそのダンスでどう動けばよいかだけ、
という的はずれの場所と化してしまうのです。およそダンシングというにはほど遠い、たいへん複
雑な経路を髪を振り乱しながら踊る人がおり、そういうダンサーほどウォークスルーが好みである
といえましょう。

RSCDS は、出版したダンスが「トラディショナルなステップとフォーメーションで作られている」
と言っています。しかしながらこの言葉は Book 23をもって死語となりました。Book 23以降に出
た15冊以上のブック（いっそう悪くなっています）に、なぜこの言葉をそのまま使っているのだし
ょうか。RSCDS は、新しいブックを出すことでその存在を正当化すべきではないのです。ダンスの
質を高めることによって存在を正当化しなければなりません。新しいダンスは、SCDの血液とは
なり得ません。むしろ新しいダンスはSCDを死に追いやっているというべきでしょう。

ダンスは少なくてもよいのです。少なければ、ダンスを完全に自分のものとして上手に踊ることが

でき、SCDのソーシャルと楽しさをふたたび造りあげることができるのです。でも、もはや時は遅すぎるのかもしれませんが。(From "the reel" No.214, London Branch Newsletter)

まず上記の投書がロンドン・ブランチ機関紙に載りました。以下はこれに対する反応です。

モーヴン・トルースト

米国メイン州ケネバンクポート

チェルトナムのジョン・マーシャル氏の意見は、だれかが反論することを期待して述べたものでありましょう。反論するだけで建設的な考えを示さなければ、マーシャル氏に点数を稼がせることになります。

ボストン周辺のパーティでは、ウォークスルーに時間をかけすぎています。事前にダンスを勉強していけばよいものを、ウォークスルーをあてにしているのです、トリッキーなダンス、よく知らないダンスについて、分からないところをもっとティーチャーに聞くべきなのに、黙っていたほうがよいと思っているのです。パーティのプログラムが前もって発表されているのは、まさにこの理由のためです。ボールにおけるウォークスルーは、全体的には好ましくありません。

ただ、マーシャル氏はダンスのジオグラフィ（地理、経路）が、テクニクよりも下位にあると考えているようです。しかし、たとえ申し分のないステップができて、どう行ったらいいかわからなければ、セットのみんなを楽しませることはできません。ダンスの地理がはっきりしなければ、完全なフレージングなどやろうとしてもできないのです。

マーシャル氏の主張は、ダンスの曲目を Book 1 - 23に封じ込めようとする古めかしいものです。Book 24 以降に、それほど価値のない踊りがあることは承知しています。ですが、初期のブックにだって同じことがいえるのです。パーティのプログラムに"The Bumpkin" や"Greig's Pipes"（いずれもBook 2）が入っているのを見たことはありません。"Golden Pheasant" が好きだという奇抜な人がいたら、ぜひお目にかかりたいと思います。マーシャル氏は"Seann Truibhas Willichan (Book 27)" や"Diamond Jubilee (Book 31)", "Quarrie's Jig (Book 36)"を踊る楽しさを認めないのでしょうか。RSCDS ダンスではない数多くのダンスが、そのような封じ込めを越えてすでに存在している、これが現実です。マーシャル氏が手にするチェルトナム・グループのパーティ・プログラムには、"Hairi's Wedding", "Irish Rover", "Pinewoods Reel"などはなく、たぶんメリハリのないパーティになっているのではないのでしょうか。(From "the tartan times" Vol. XL, No. 4, Boston Branch Newsletter)

マルカム・ジョンソン

英国ケンブリッジ

新しいダンスばかりに振り回されている、というジョン・マーシャル氏の意見を読みました。このような荒野なみの状況に悲鳴をあげているのが私だけではないことを知り、意を強くしました。

RSCDS のブランチ以外のところでは、プログラムに事実上トラディショナル（伝統的）な踊りは消滅しており、踊られたとしてもウォームアップ・ダンスとして用いられているにすぎません。昨今のこういった傾向に、私は声を大にして警鐘を鳴らしてきました。ケンブリッジ・ブランチもこういう苦々しい風潮には反対しています。ブランチAGH に出席しただれもが、このことを証明するでしょう。

RSCDS に対して、Book 23 以降に出版した全ダンスを忘れ去ってほしいと望むのは、あまりに非現実的かもしれません。しかしながら、最良のスコティッシュ・ダンシングを継承していこうとするならば、この考えは正当であり、的を射ていると思います。主要なボールのプログラム中、半分

以上はトラディショナル・ダンスで占められるべきです。トラディショナルかどうかの大まかな定義は、そのダンスが RSCDS 設立よりも古いかどうかであると考えます。

マーシャル氏の意見は、RSCDS はダンスのスタンダード（規範）に重きを置いて活動すべきである、というものですが、私はこれに賛成です。これから RSCDS がダンス資料を出版し続けるとするならば、古い資料をコピーの形で配布するやりかたが望ましいと思います。ダンス・フロアに進み出たとき、われわれは何をどうやるべきなのか、その理解を早めるような活動を行なってほしいと思います。（From "the reel" No.215, London Branch Newsletter）

デビッド・ウィルソン

米国マサチューセッツ州アーリントン

ジョン・マーシャル氏の意見は興味ある問題を提起しています。ウォークスルーに関する氏の主張には大いに賛成するものです。私はすぐにダンシングに移るほうが良いと思います。クラスにおいてもウォークスルーをやりすぎています。

踊るべき踊りが多すぎる、これにも賛成です。ですが、「踊るべきはこれなのだ」という見方は、異なる意見を持っています。Book 23 までのダンスには偉大なものがあります。私は "Petro-nella" が大好きですが、でも、たいした踊りではありません。Book 23 までのダンスの中にも、どうと言うこともないダンスが少なくありません。"The Reel of the Royal Scots" はたしかに新しいダンスですが、これよりも "Golden Pheasant" のほうが好きだ、という人がいるでしょうか。"Golden Pheasant" をおもしろくないと知りつつ踊っており、すぐに踊れるダンスではありません。新しいダンスに比べたら、人気のない踊りです。

では、素敵なダンスの数はいったいどれくらいあるのでしょうか？ネピア・インデックスは 7,000 以上のダンス・タイトルを取録していますが、このなかの 2,127 のダンスがそれに該当します。全部を踊ることなどとてもできません。私にしたって、すぐにタイトルを挙げられるのはたった 7 つ、よくよく頭をひねって 77 というところでしょうか（訳注：いずれも 7 にちなんだ筆者自身のユーモア）。私たちはあり余るダンスをどうやって活用するか、という思いにあるのです。

ですが、これは悲しむべきことでしょうか？……決してそうではありません。

最近踊っていないけれども、折りにふれ往時のよきダンスをまたやろうとしているのでしょうか？

……しかりです。

作られてから間もないダンスもまた、踊ろうとしていますか？……もちろんです。

新しいダンスばかりにどっぷりつかった状態になって、これではいけないと自制する気持ちや仕組みがあると思いますか？……まったくそのとおりです。

ソサエティは、新しいブック用にと提出されたダンスを審査するわけですが、私見ではソサエティのやりかたは当を得ていると思います。では、ノン・ソサエティ・ダンスについてはどうでしょうか？ロイ・ゴールドリング、ジョン・ドゥルーリ、ヒュー・フォスがつくったダンス、その他少数ながら有名なダンスを、私はたいへん楽しんでます。ローカルなダンスはその地域の独り善がりではないか？……多くの場合そのとおりでしょうが、"Pinewoods Reel" のような特例もあります。

では私たちはなにを踊るべきでしょうか？1987年にサンフランシスコ・ブランチがそのようなリストを作りました。ビギナー、インタミディット、アドバンスドに区分され、合計 105 の踊りが載っていました。その選択にいささかの異議があるとはいえ、クラスやその他のプログラムを急に決めなければならないとき、私はこのリストを参照するのが常でした。サンフランシスコの連中がこのリストの見直しをやっているかは分かりませんが、最新版があるならどうしても入手したいところです。（ダンスをどう組み合わせるかに苦吟していながら、SF ブランチの選択にも同調できな

ろです。(ダンスをどう組み合わせるかに苦吟しているながら、SFブランチの選択にも同調できない人はどうかしていると思います) 最新版リストを手に入れ、私がとくに偏愛する踊りをしてくれるようティーチャーに希望することでしょう。私が努力しない人間で、他人に迷惑を押しつけることをやっているって？私はティーチャーではないんです。試験に落ちてしまったんですよ。

サンフランシスコの話に戻りましょう。かつて2人のティーチャーが「今月のダンス・ブック」クラスをやっていました。新しいダンスについて、評価付けをやっていたのです。もちろん全部のダンスを踊ることはできなかったのですが、意義あることでした。その感想を発表すべきであったと思います。同意できないところがあったにせよ、その評価はダンスの選択において基本にはなっただけです。

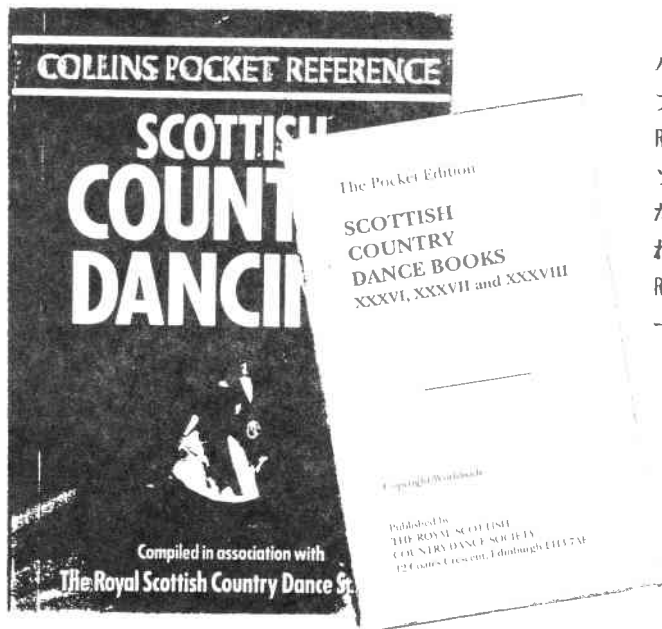
ボストン・ブランチの執行部、指導部は、プログラムをどう統制していくかで多くの時間を費やしています。ときとして激論になることもあります。選定条件の一つは『よく知られているか』です。どのダンスを踊るか、その選定は、時間をかけてもやる価値があるのです。

古きよき日とは、いったい何をさすのでしょうか？だれもが全部のダンスを知っていた、などというときが過去にあったのでしょうか？私は疑問に思います。でも、わがボストン・ブランチのボールはエキサイティングであり、談笑、ソーシャルはボストンにあり、と申せましょう。その盛り上がり方の一つの要因には、「新しいダンスが入っているから」があるのです。『民族的な伝統に生きる現代のフォークダンサー』の面からいえば、私はたぶん落第生となりますね。(From "the tartan times" Vol. XL, No. 4, Boston Branch Newsletter)

たいへん興味のある問題であり、東京ブランチのみなさんはどう
お考えでしょうか？ご意見をセクレタリにお寄せください。

新ダンスブック紹介

Collins Pocket Preference "SCOTTISH COUNTY DANCING".



コリンズブックと RSCDSポケットブック

3年にわたって準備されたハーバー・コリンズ出版社のポケットブックが刊行された。編者はRSCDS 会員のピーター・ナイトで、ソサエティも全面協力して完成したものである。内容は4部に分かれている。第1部はSCDの概略、RSCDS 紹介そしてステップとフォーメーションに関するもので、RSCDS マニュアルから該当する部分をもってきたもの。この部分だけで90ページある。のこりの3部は、53のソサエティ・ダンス、ノン・ソサエティの踊りが29、ケイリ/パーティ・ダ

ンス27曲のダンシング解説となっている。

ソサエティ・ダンスは "Circassian Circle" から "Wild Geese" まで。"Earl of Mansfield" という難曲もあるが、なじみの踊りばかりで、音楽がかかったらトークスルーなしでも踊れるようにしたい。

ノン・ソサエティ・ダンスを踊るとき、資料がなくてグリーンブックで代用することがよくある。29のダンスしかないが、本のこの部分はそういったダンスを解説している。"Bees of Haggie-knockater" から "White Heather Jig" まで。

SCDを日本民踊にたとえれば、ケイリノパーティ・ダンスは盆踊りに相当し、英国ではSCD以上に親しまれている。日本ではフォークダンス・クラブで踊られているダンスである。"Blue-bell Polka", "Canadian Burn Dance", "Virginia Reel" など。

巻末に索引あり。RSCDS ポケット版の2倍の大きさ。288 ページ。ソフトカバー。

注文略号 : コリンズ・ブック 価格 : ¥1,700 (国内送料¥240込み)

郵便振替で「コリンズ・ブック ○冊希望」と書いて

00160-9-64023 RSCDS東京ブランチ あてお申込みを。

注文締切 : 8月15日(木)消印まで。 現品お渡し : 10月下旬の予定。

グループ告知板

- 9月 1日(日) SCDGアイリス スコティッシュ・ボール 坂戸市勝呂公民館
渡辺清一 0492-81-6427
- 10月16日(水) 長岡アンティーズ 第6回パーティ ロングライフ・センター
山田としこ 0258-28-2026

事務局から

- 今年のソサエティ年次総会は、11月1日(金)・2日(土) ダンディで行なわれます。出席ご希望のかたはセクレタリにご連絡ください。
- 前チェアマン岩崎誠司さんは米国のスタンフォード大学に留学のため、6月30日に出発しました。ご家族は約1か月遅れて日本発とのこと。留学予定期間は1年間、ビジネススクールでかなりきついコースとききました。スタンフォードにもサンフランシスコ・ブランチに属するSCDグループがあると本人はいつておられ、勉強の息抜きにSCDを楽しまれることでしょう。ご健勝を祈っています。新住所はつぎのとおりです。

Mr and Mrs Iwasaki, 861 Riverside Drive, Los Altos, California, CA 94024 U.S.A.

Tel +1 415 941 5175.

RSCDS 棘ブランチ 1996.7.25 新
RSCDS東京ブランチ
セクレタリ 稲垣 俊 0273-27-3886
370 高崎市上中居町290